

全般季節予報支援資料 1か月予報

2025年7月3日

予報期間：7月5日～8月4日

この資料は、気象事業者等が、気象庁の提供する季節予報の根拠を理解するための補助資料であり、そのままの形で一般に提供することを想定して作成したものではありません。

特に注意を要する事項

北・東・西日本は、期間の前半は気温がかなり高い状態が続く見込みです。

出現の可能性が最も大きい天候

北日本では、期間の前半は、平年に比べ曇りや雨の日が少ないでしょう。期間の後半は、天気は数日の周期で変わるでしょう。

東・西日本では、期間の前半は、平年に比べ曇りや雨の日が少ないでしょう。期間の後半は、平年と同様に晴れの日が多いでしょう。

沖縄・奄美では、平年に比べ晴れの日が少ないでしょう。

全般1か月予報

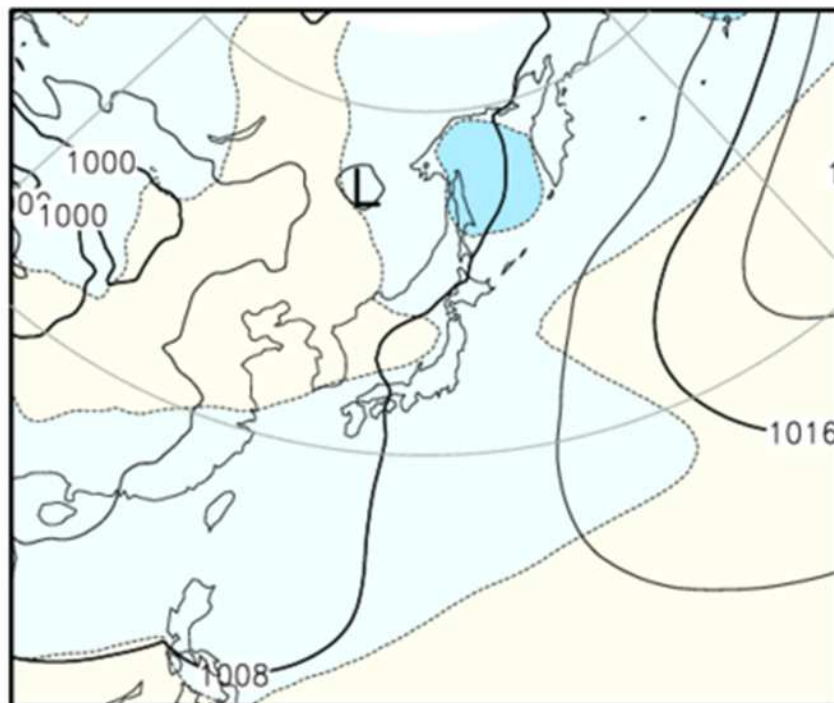
1か月		気温(%)	降水量(%)	日照時間(%)	降雪量(%)
		低 並 高	少 並 多	少 並 多	少 並 多
北日本	日本海側 太平洋側	10:10:80	40:40:20 40:40:20	10:30:60 10:30:60	
東日本	日本海側 太平洋側	10:10:80	50:30:20 40:40:20	10:30:60 10:30:60	
西日本	日本海側 太平洋側	10:10:80	50:30:20 40:40:20	10:30:60 10:30:60	
沖縄・奄美		20:30:50	20:40:40	40:40:20	

気温	1週目(%)	2週目(%)	3～4週目(%)
	低 並 高	低 並 高	低 並 高
北日本	10:10:80	10:10:80	10:30:60
東日本	10:10:80	10:10:80	10:30:60
西日本	10:10:80	10:10:80	10:30:60
沖縄・奄美	20:40:40	20:40:40	20:40:40

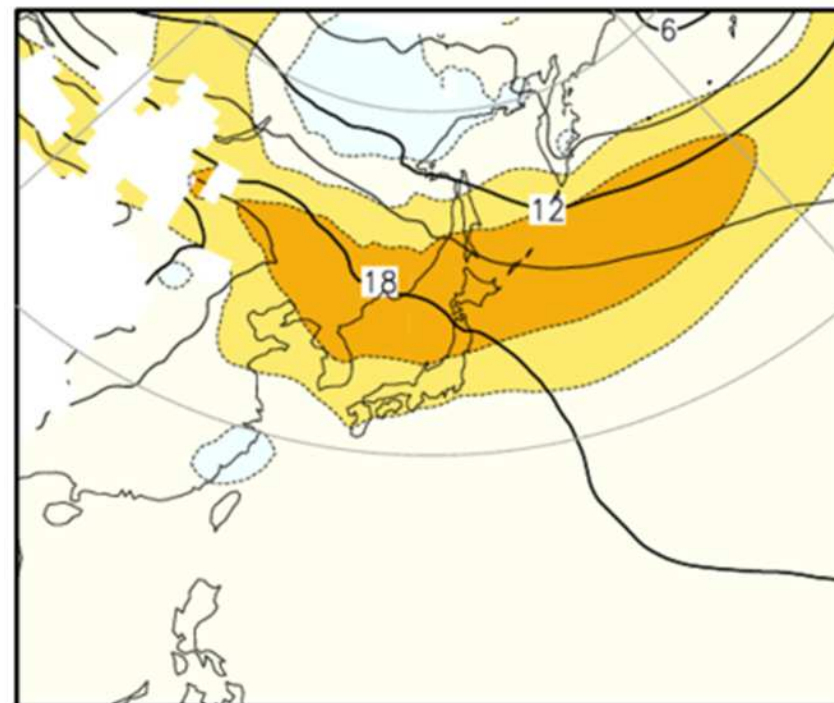
全般予報のポイント

- 向こう1か月の気温は、暖かい空気に覆われやすいため、全国的に高く、北・東・西日本は期間の前半はかなり高い状態が続く見込みです。
- 太平洋高気圧に覆われやすいため、向こう1か月の降水量は、東・西日本日本海側では少なく、北日本と東・西日本太平洋側では平年並か少ないでしょう。向こう1か月の日照時間は、北・東・西日本では多いでしょう。
- 沖縄・奄美では、熱帯じょう乱や湿った空気の影響を受けやすい時期があるため、向こう1か月の降水量は平年並か多く、日照時間は平年並か少ないでしょう。

海面気圧(1か月)



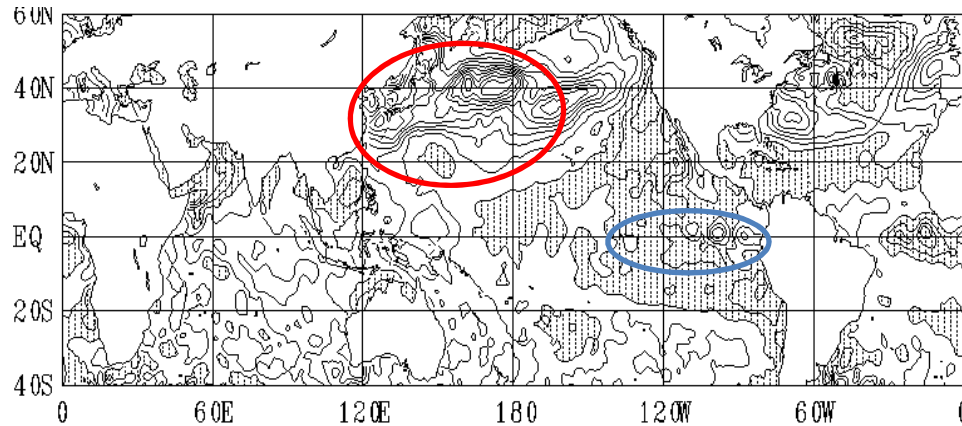
上空約1500mの気温(1か月)



1か月平均の海面気圧(左図)は、本州付近は等圧線が西に張り出しており、北・東・西日本では太平洋高気圧に覆われやすいでしょう。一方、日本の南は気圧が平年より低く予測され、沖縄・奄美では湿った空気の影響を受けやすい時期があるでしょう。

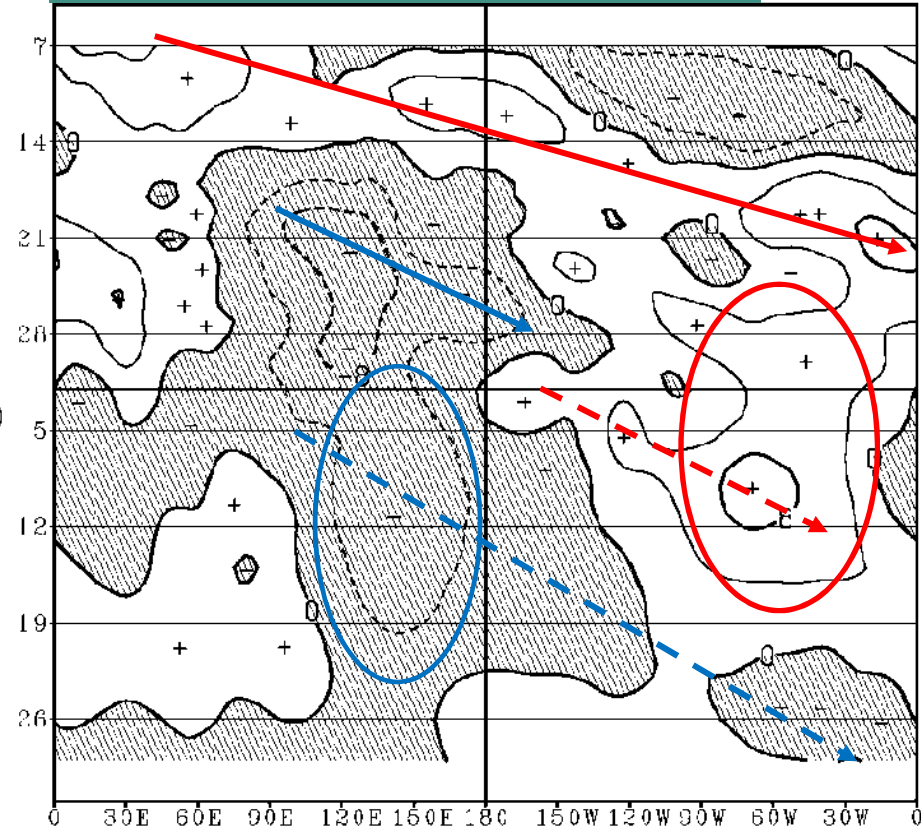
上空約1500mの気温(右図)は、北日本を中心に、全国的に平年より高いと予測されています。

SST偏差



熱帯域では、太平洋東部で負偏差、北西太平洋で広く正偏差。

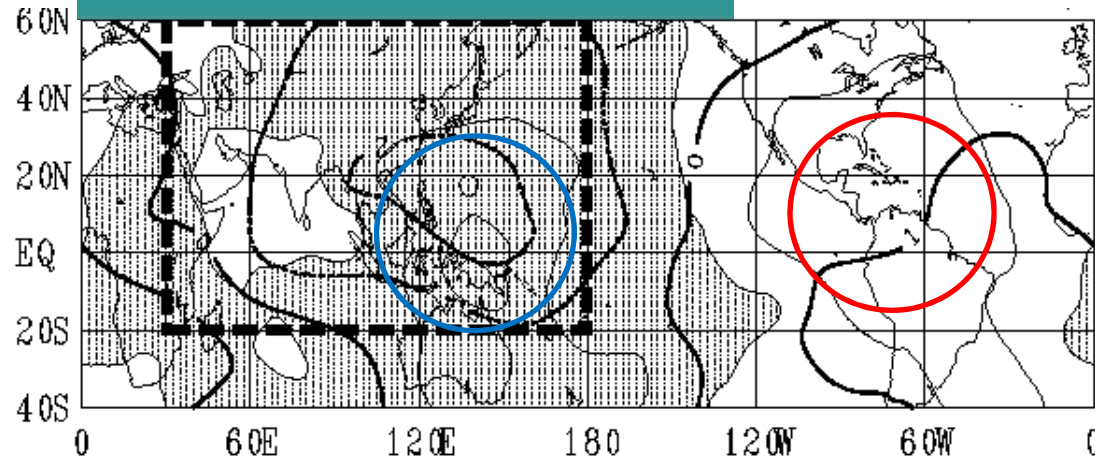
200hPa速度ポテンシャル偏差



実況から4週目にかけて、発散偏差域（対流活発域）がインドネシア付近から太平洋西部で持続。一方、収束偏差域（対流不活発域）は2週目にかけて太平洋東部から南米付近で持続。

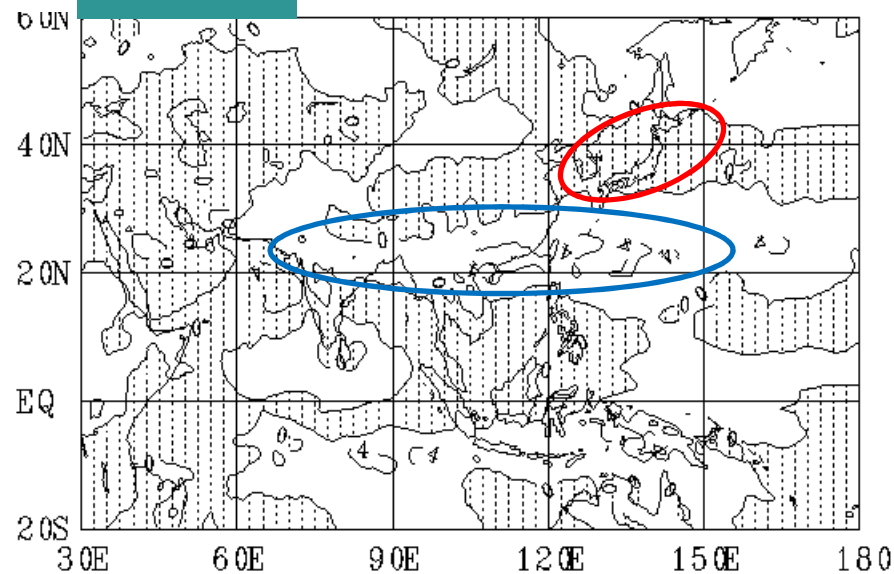
予報資料の解釈 1か月(7/5~8/1)

200hPa速度ポテンシャル



熱帯域では、太平洋熱帯域の西部で上層発散偏差。一方、南米付近で上層収束偏差。

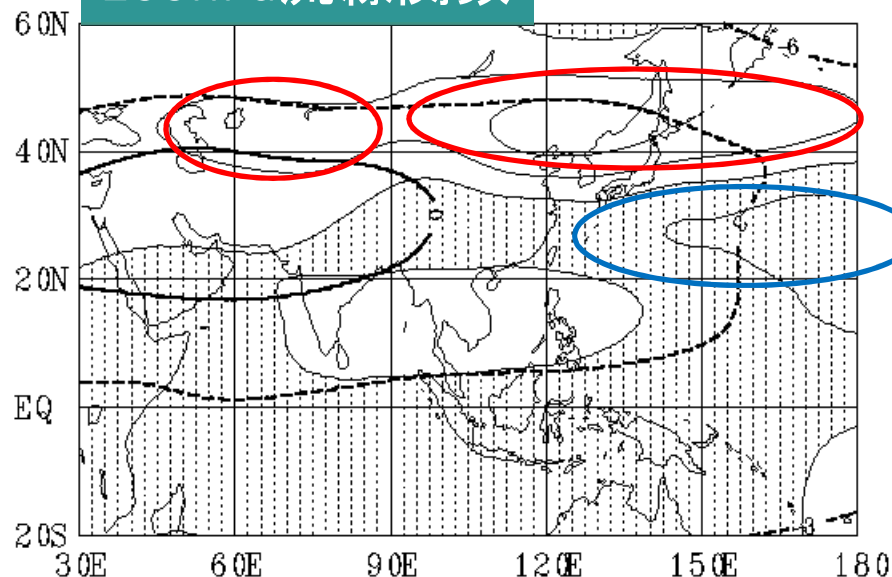
降水量



インドの北から小笠原諸島付近にかけて多雨偏差、北・東・西日本付近は少雨偏差。

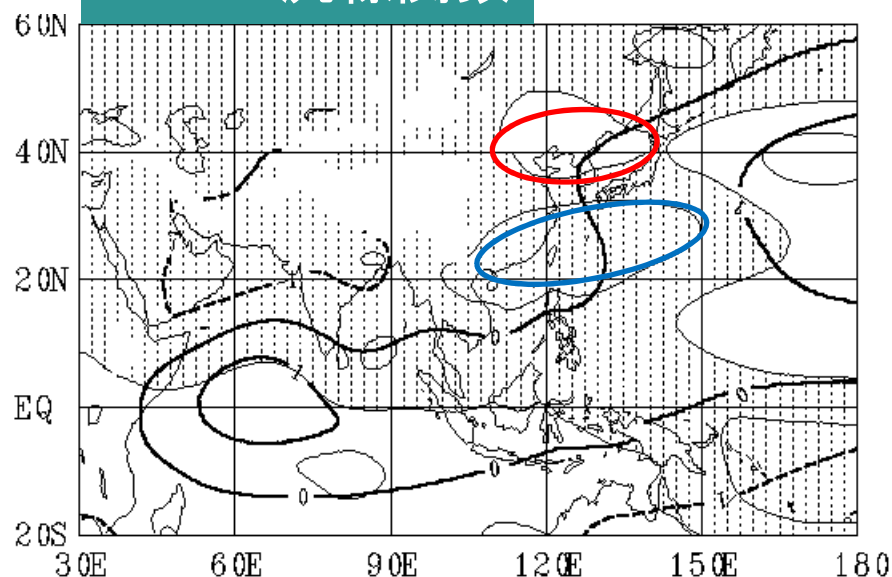
予報資料の解釈 1か月(7/5~8/1)

200hPa流線関数



亜熱帯ジェット気流沿いのロスビー波束伝播や熱帯の対流活動の影響で、本州付近は高気圧性循環偏差。日本の南は低気圧性循環偏差。
亜熱帯ジェット気流はアジアから日本付近で北偏。

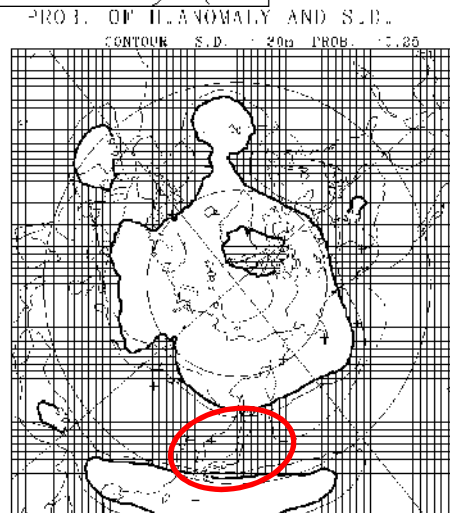
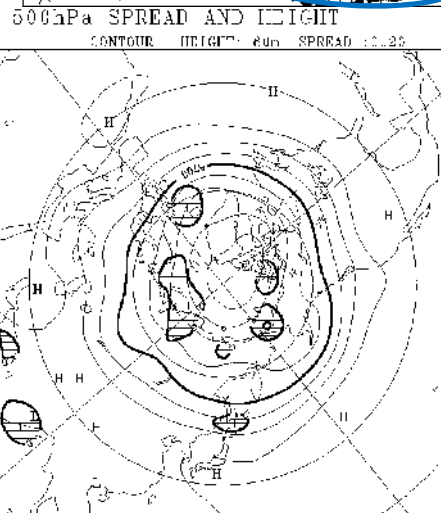
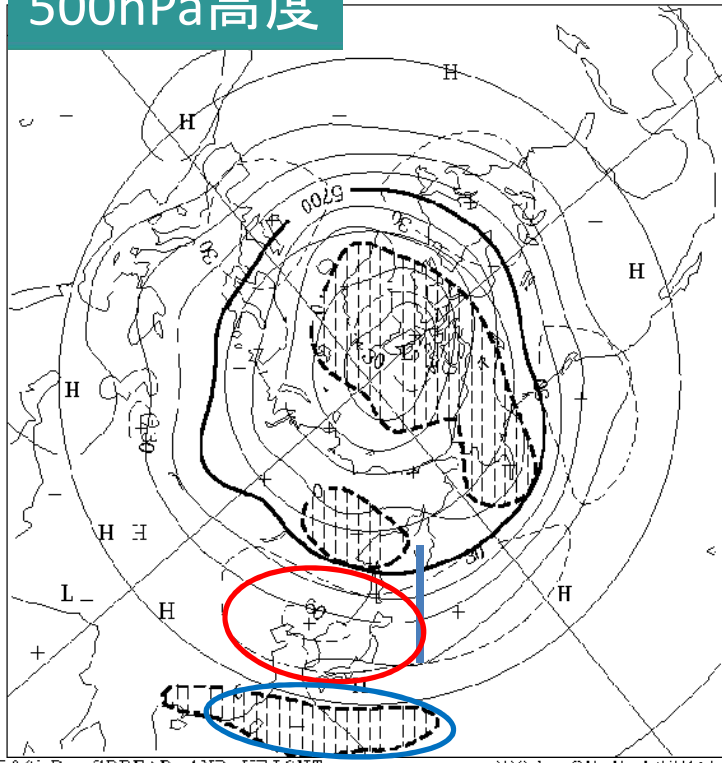
850hPa流線関数



熱帯の対流活動に対応して、華南から日本の南で低気圧性循環偏差。中国東北区付近を中心に高気圧性循環偏差。

予報資料の解釈 1か月(7/5~8/1)

500hPa高度

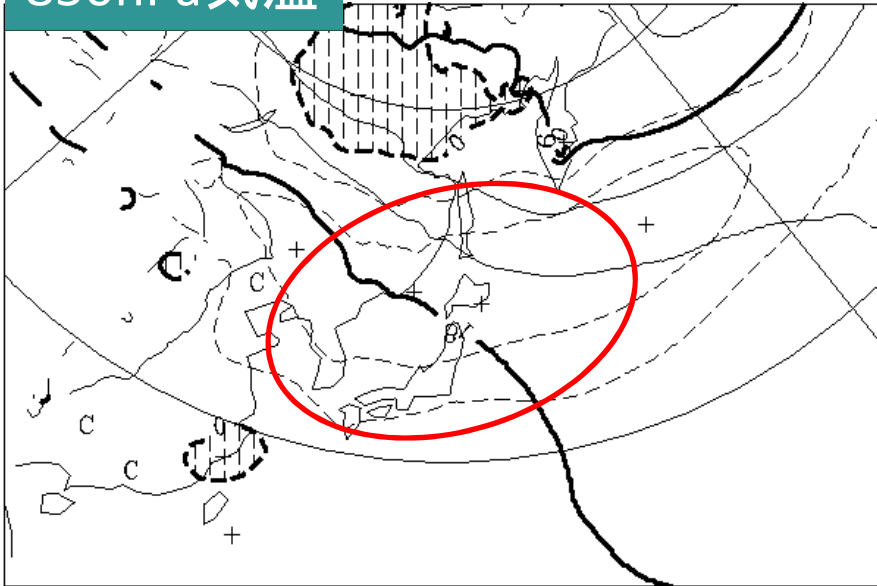


北半球中緯度帯の全域で正偏差で、日本付近は特に偏差が大きい。日本の東にトラフがあり、日本付近は東谷傾向。一方、日本の南は負偏差。

北・東・西日本は正の高偏差
確率75%以上の領域に覆われる。
日本域のスプレッドは小さく、
日本付近が高温となる予報は
確からしいと考える。

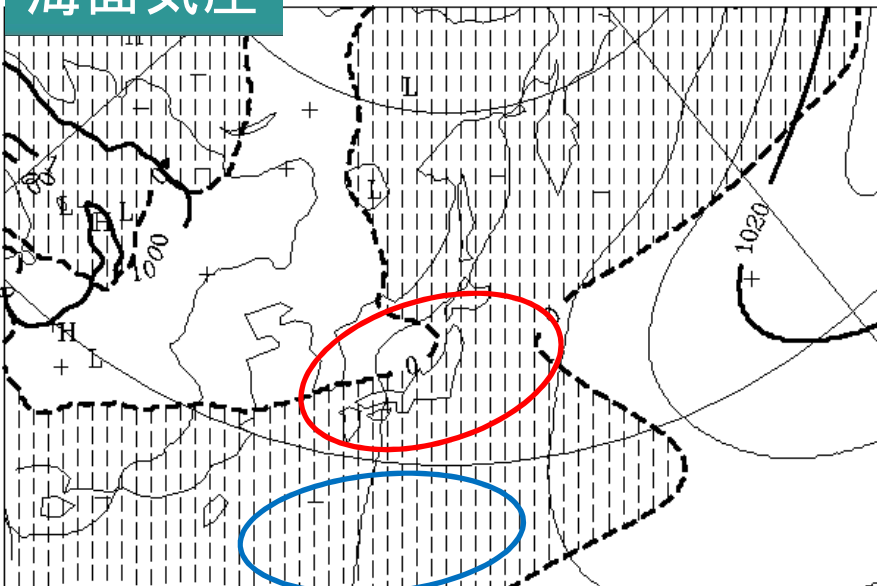
予報資料の解釈 1か月(7/5~8/1)

850hPa気温



日本付近は北日本を中心に全国的に正偏差。

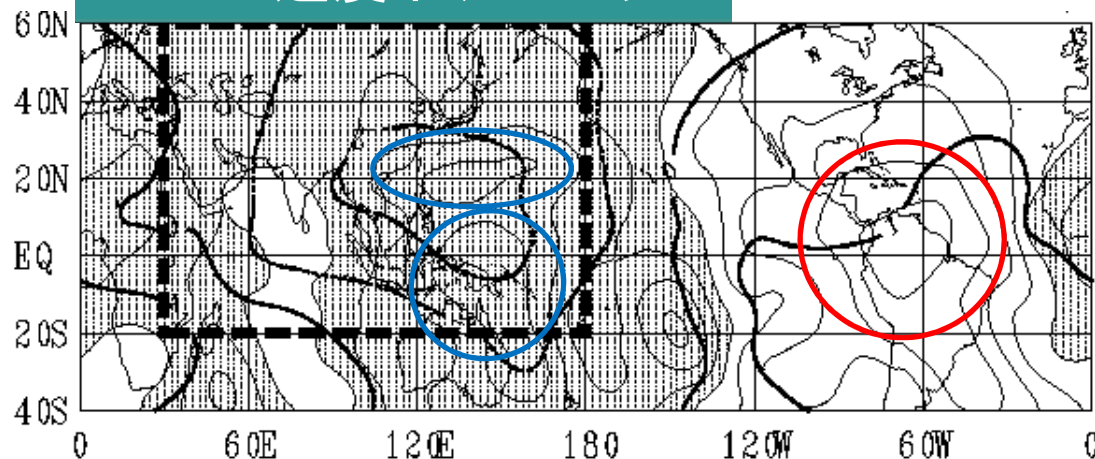
海面気圧



本州付近は相対的な正偏差で、太平洋高気圧の張り出しが強く、北・東・西日本では太平洋高気圧に覆われやすい。一方、日本の南は負偏差で、沖縄・奄美では湿った空気の影響を受けやすい時期がある。

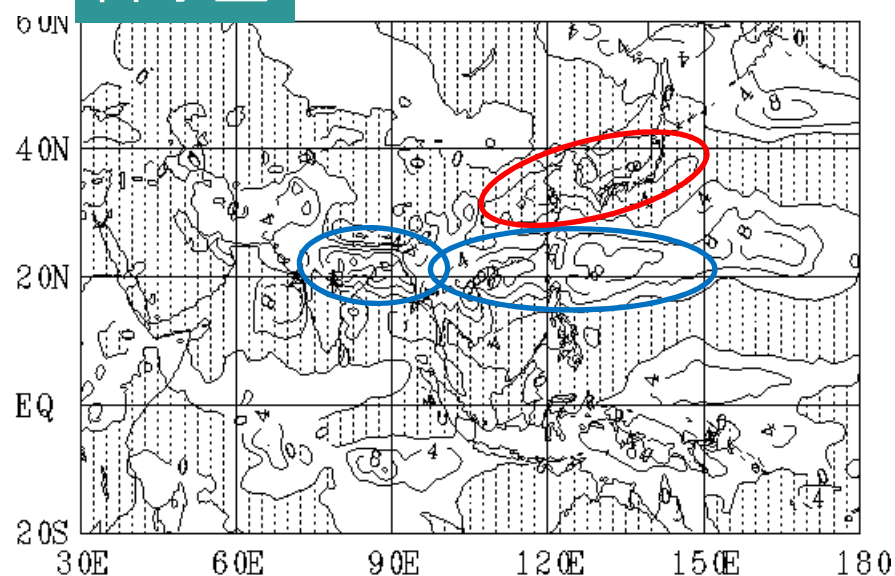
予報資料の解釈 1週目(7/5~7/11)

200hPa速度ポテンシャル



ニューギニア付近と日本の南で上層発散偏差、南米付近で上層収束偏差。

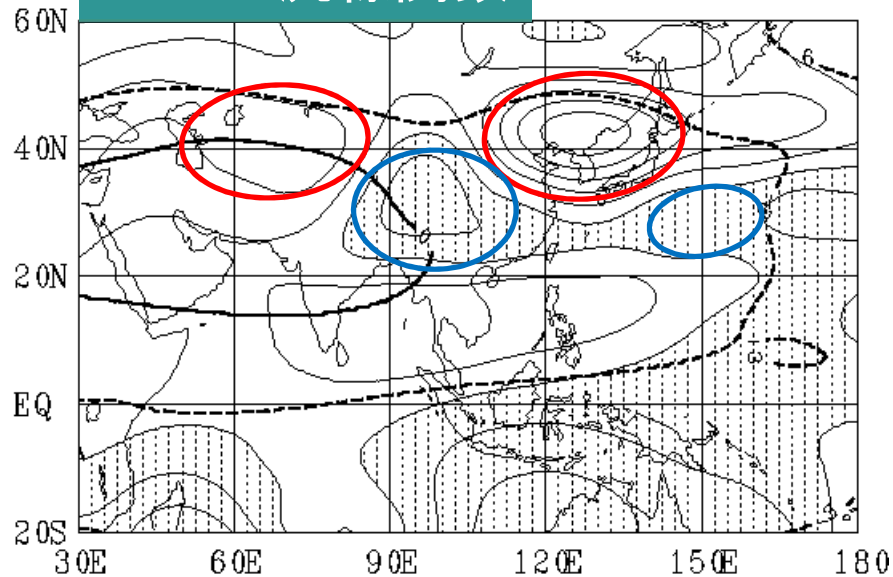
降水量



インドの北から太平洋西部にかけての北緯20度帯で多雨偏差。華中から本州付近を中心に少雨偏差。

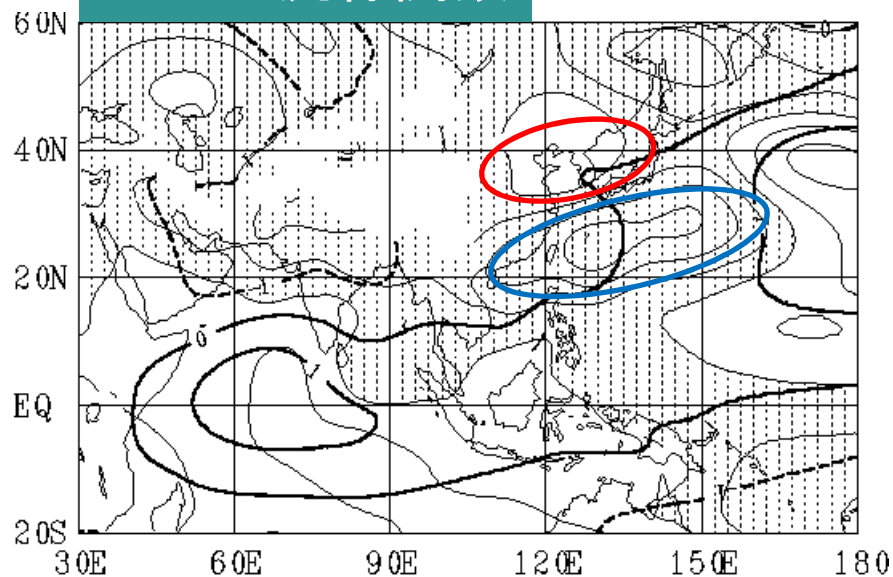
予報資料の解釈 1週目(7/5~7/11)

200hPa流線関数



亜熱帯ジェット気流沿いのロスビー波束伝播の影響で、中国東北区付近を中心に高気圧性循環偏差。日本の南東海上で低気圧性循環偏差。

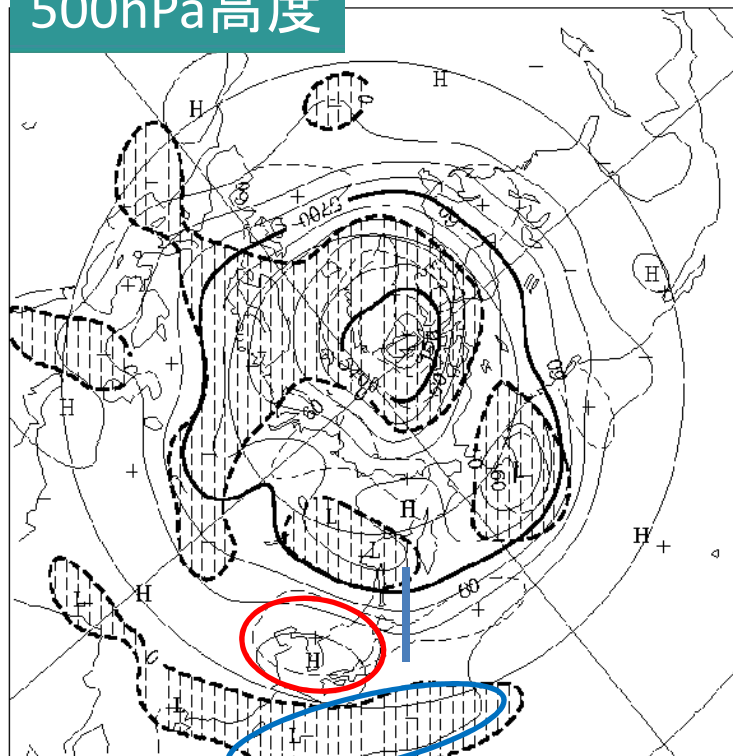
850hPa流線関数



北緯20度帯の対流活発に対応して、日本の南で低気圧性循環偏差、その北の黄海付近は高気圧性循環偏差で、順圧的な構造。

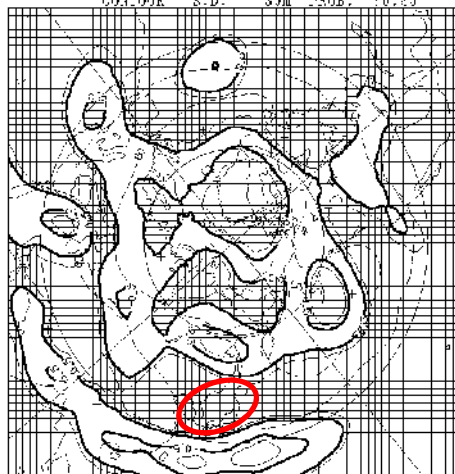
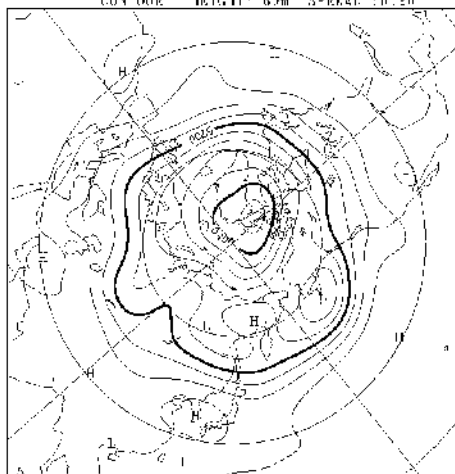
予報資料の解釈 1週目(7/5~7/11)

500hPa高度



500hPa SPREAD AND HEIGHT
CONTOUR HEIGHT: 63m SPREAD: 0.20

PROB. OF H. ANOMALY AND S.D.

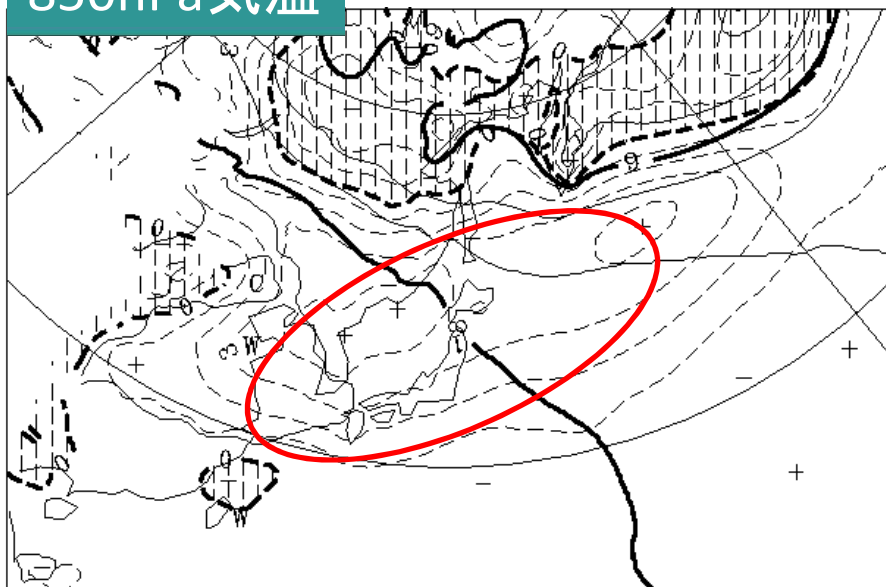


本州付近は正偏差で偏差の中心は日本海。日本の東にはトラフがあり、日本付近は東谷。一方、日本の南は負偏差。

本州付近は広く正の高偏差確率75%以上の領域に覆われている。

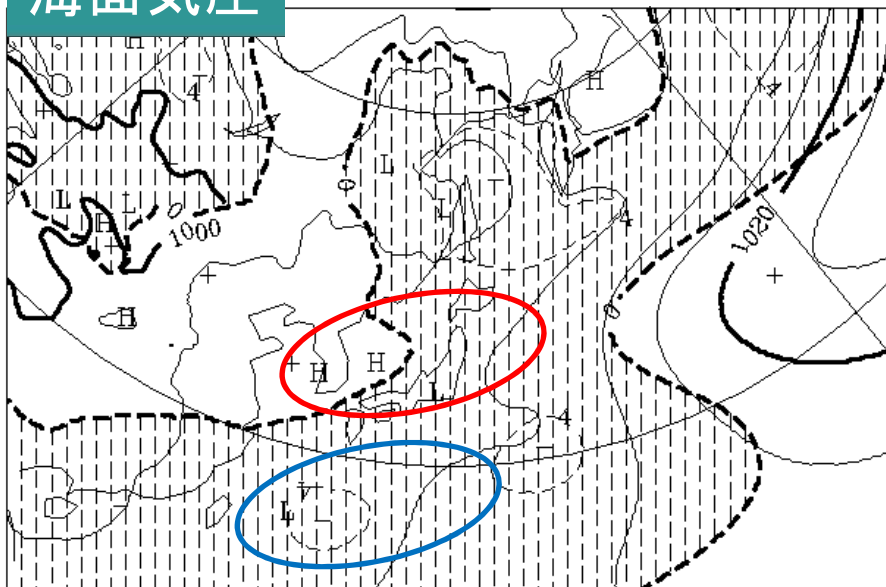
予報資料の解釈 1週目(7/5~7/11)

850hPa気温



日本付近は、北日本中心に顕著な正偏差。

海面気圧



本州付近は相対的に負偏差が小さく、太平洋高気圧は本州付近に張り出す。北・東・西日本は太平洋高気圧に覆われやすい。一方、日本の南を中心に負偏差で、沖縄・奄美は熱帯じょう乱や湿った空気の影響を受けやすい。

想定される天候

- ・ 北・東・西日本では、太平洋高気圧に覆われやすいため、平年に比べ曇りや雨の日が少ないでしょう。
- ・ 沖縄・奄美では、熱帯じょう乱や湿った空気の影響を受けやすいため、平年に比べ晴れの日が少ないでしょう。

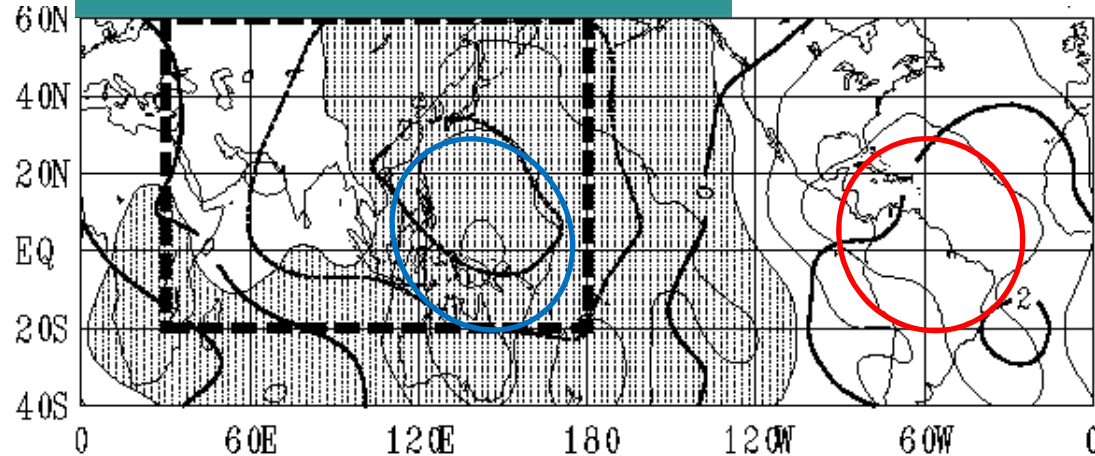
<気温>

暖かい空気に覆われやすいため、北・東・西日本はかなりの高温、沖縄・奄美は高温傾向。

<天候>

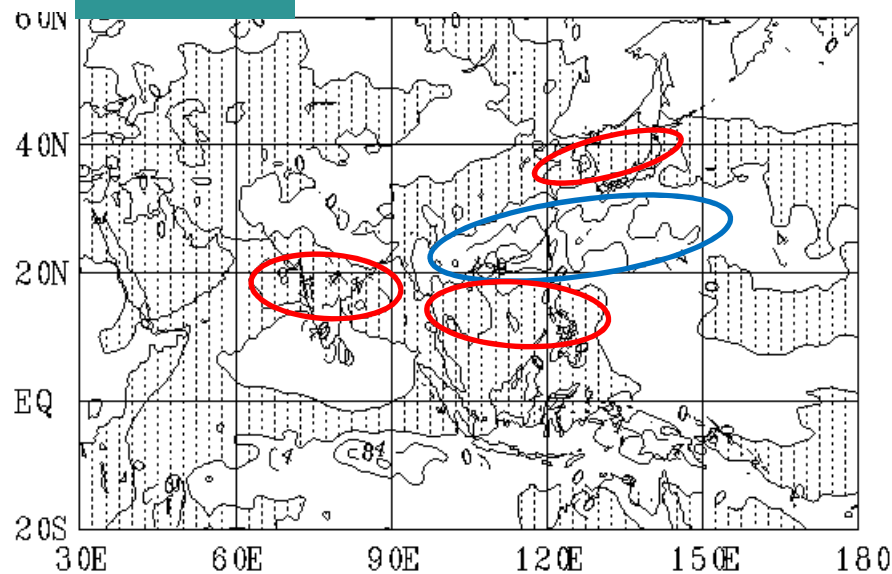
北・東・西日本では、太平洋高気圧に覆われやすい。
沖縄・奄美では、熱帯じょう乱や湿った空気の影響を受けやすい。

200hPa速度ポテンシャル



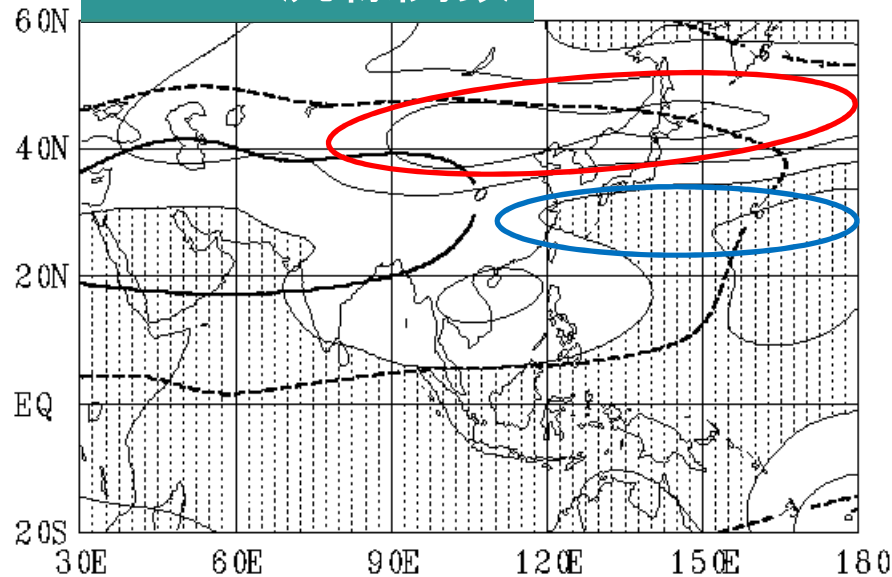
ニューギニア付近と日本の南で上層発散偏差、南米付近で上層収束偏差。

降水量



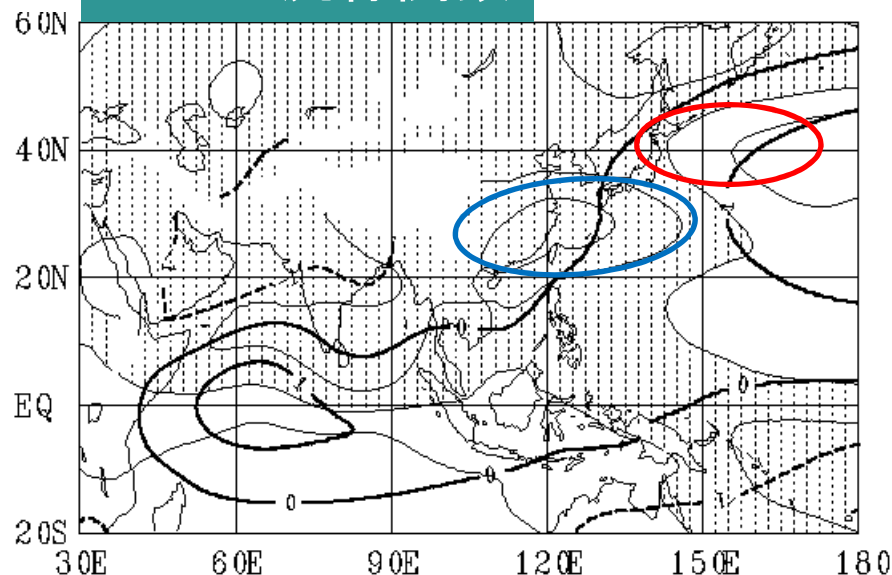
華南から日本の南を中心に多雨偏差。インド北部付近と南シナ海からフィリピン付近は少雨偏差。
本州の日本海側中心に少雨偏差。

200hPa流線関数



日本付近は、本州を境に、北側は帯状の高気圧性循環偏差、南側は帯状の低気圧性循環偏差。対応して、亜熱帯ジェット気流はアジアから日本の東海上にかけて北偏して流れる。

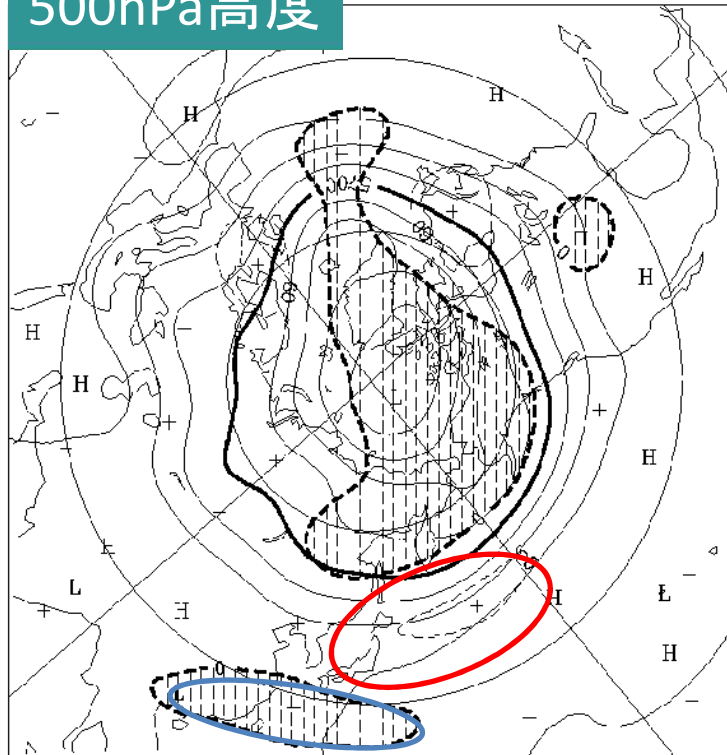
850hPa流線関数



華南から日本の南の対流活発に対応して、日本の南で低気圧性循環偏差。北日本から日本のはるか東にかけては高気圧性循環偏差で、順圧的な構造。

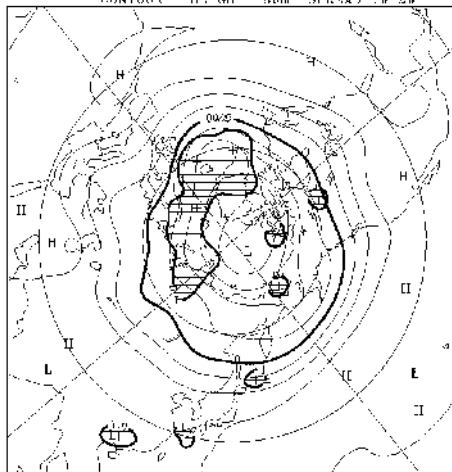
予報資料の解釈 2週目(7/12~7/18)

500hPa高度



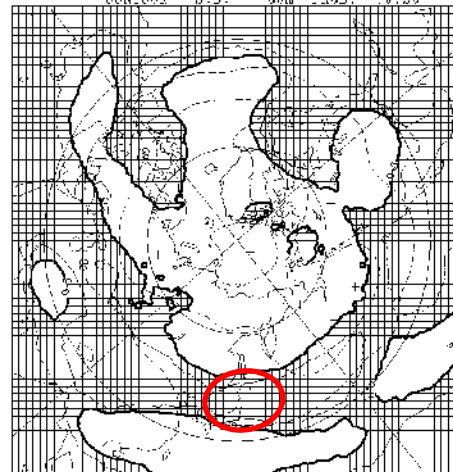
500hPa SPREAD AND HEIGHT

CONTOUR HEIGHT 80m SPREAD 10 20



PROB. OF H. ANOMALY AND S.D.

CONTOUR S.D. 30m 20% 10.25

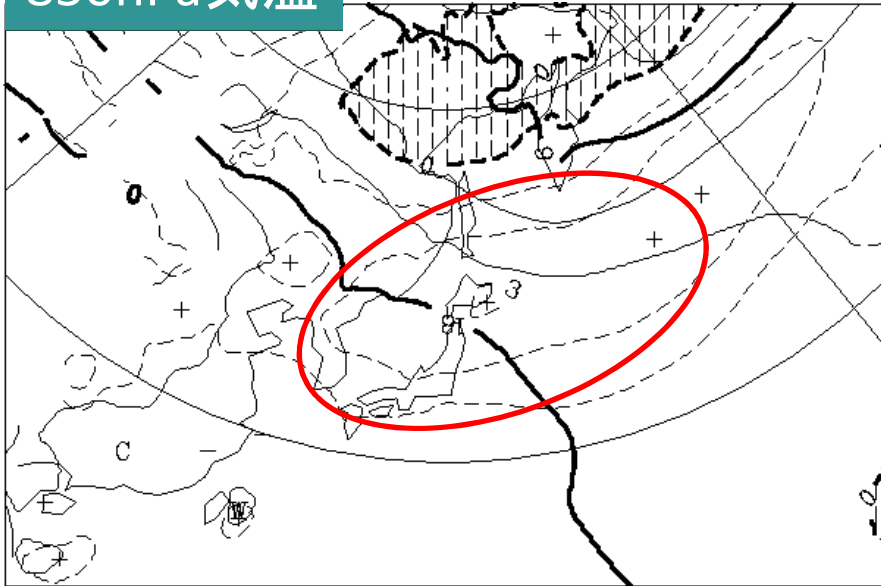


北半球中緯度帯のほぼ全域で正偏差で、北・東・西日本付近は日本のはるか東を中心に偏差が大きい。一方、華南から日本の南にかけては負偏差。

北・東日本付近は正の高偏差
確率50%以上の領域に覆われる。

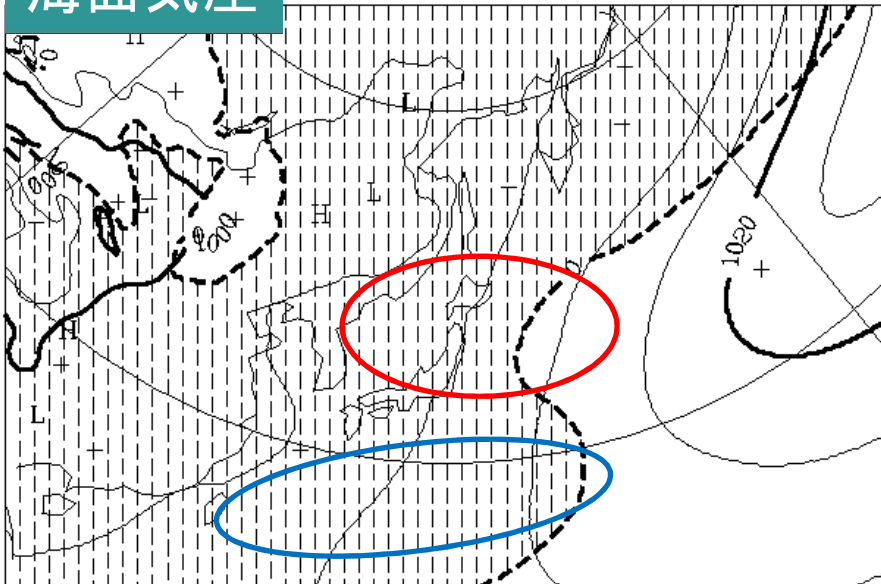
予報資料の解釈 2週目(7/12~7/18)

850hPa気温



日本付近は、北日本中心に正偏差。

海面気圧



日本の南を中心に負偏差で、沖縄・奄美を中心に湿った空気の影響を受けやすい。一方、北日本付近は相対的に負偏差が小さく、北・東・西日本は太平洋高気圧に覆われやすい。

想定される天候

- ・ 北・東・西日本では、太平洋高気圧に覆われやすいため、平年に比べ曇りや雨の日が少ないでしょう。
- ・ 沖縄・奄美では、湿った空気の影響を受けやすいため、平年に比べ晴れの日が少ないでしょう。

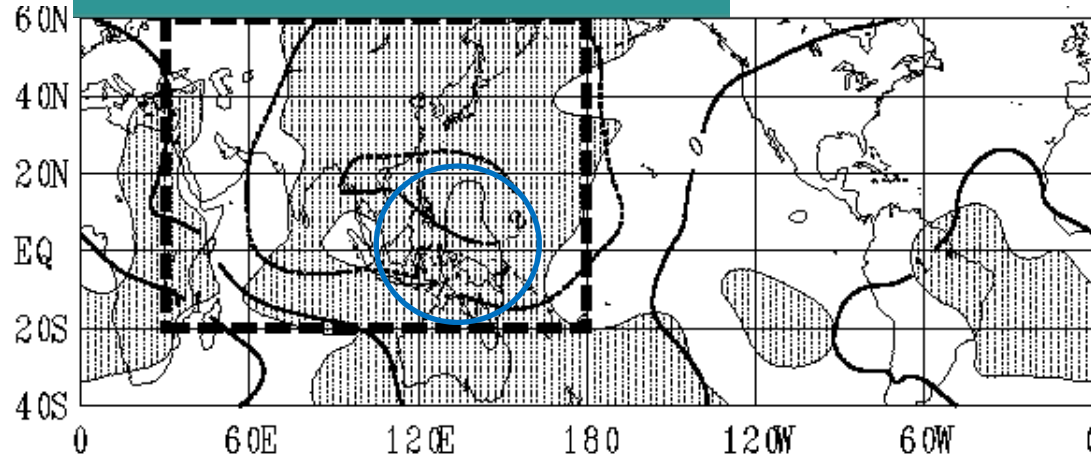
<気温>

暖かい空気に覆われやすいため、北・東・西日本は高温、沖縄・奄美は高温傾向。沖縄地方を除きかなりの高温。

<天候>

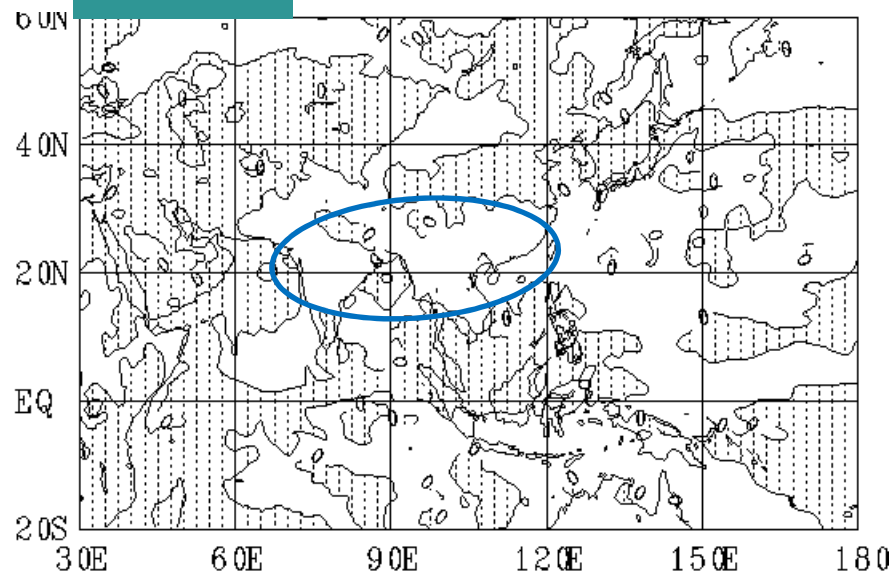
北・東・西日本では、太平洋高気圧に覆われやすいが、東・西日本太平洋側は湿った空気の影響を受ける時期もあることを考慮し、並雨。
沖縄・奄美では、湿った空気の影響を受けやすい。

200hPa速度ポテンシャル



インドネシア付近で上層発散
偏差だが、偏差は小さい。

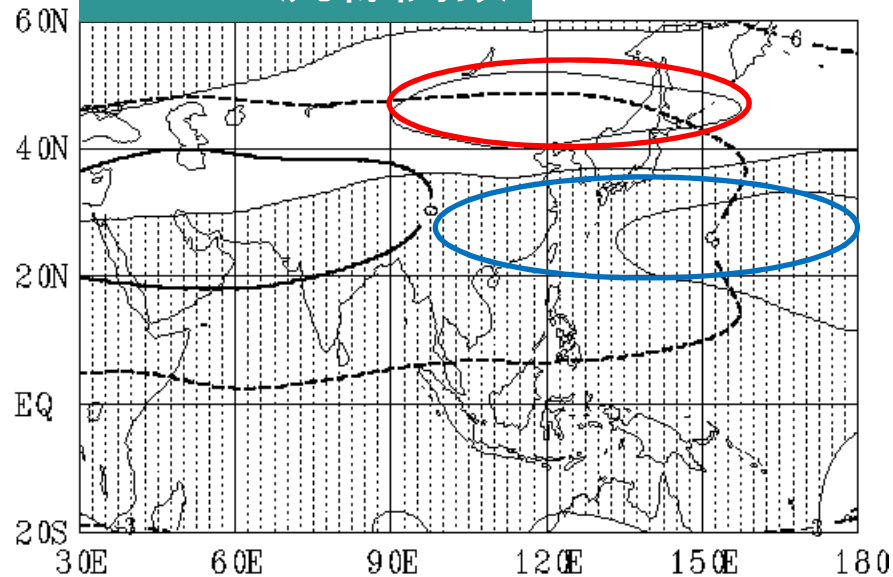
降水量



インドの北から華南付近で多
雨偏差。ただし、熱帯季節内変
動の予測に不確実性があり、
日本付近はその影響を受ける
可能性がある。

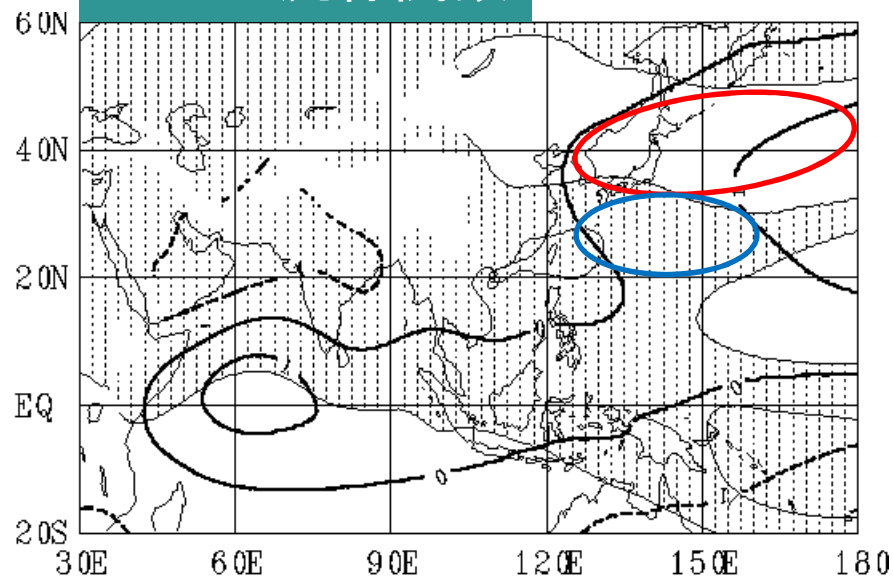
予報資料の解釈 3～4週目(7/19～8/1)

200hPa流線関数



日本付近は、本州を境に、北側は帯状の高気圧性循環偏差、南側は帯状の低気圧性循環偏差が続く。対応して、亜熱帯ジェット気流もアジアから日本の東海上にかけて北偏して流れる傾向が続く。

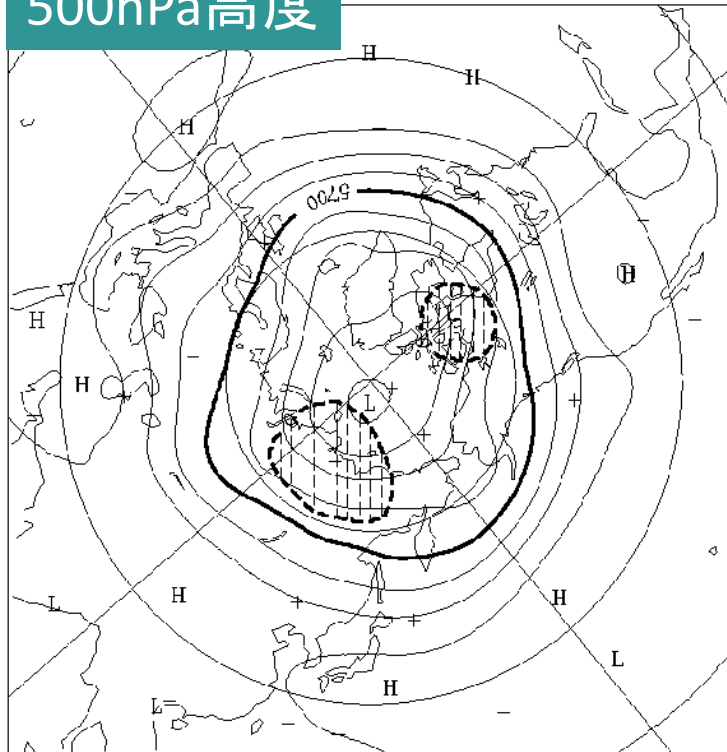
850hPa流線関数



本州付近から日本のはるか東で高気圧性循環偏差。日本の南で低気圧性循環偏差。順圧的な構造。

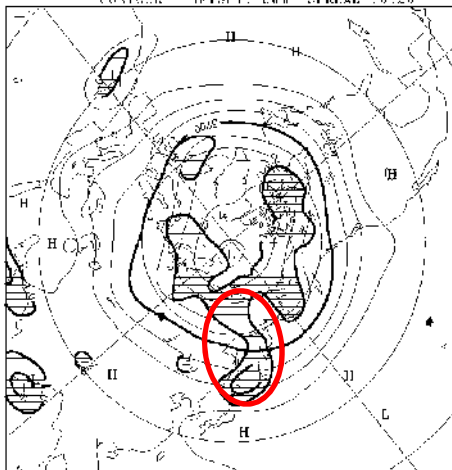
予報資料の解釈 3～4週目(7/19～8/1)

500hPa高度



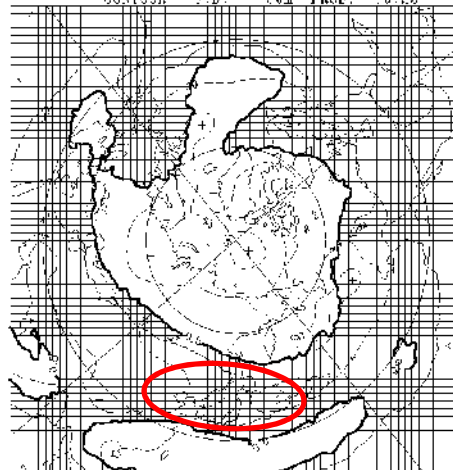
500hPa SPREAD AND HEIGHT

CONTOUR HEIGHT: 60m SPREAD: 0.20



PROB. OF 1. ANOMALY AND S.D.

CONTOUR S.D.: 20m PROB.: 0.25

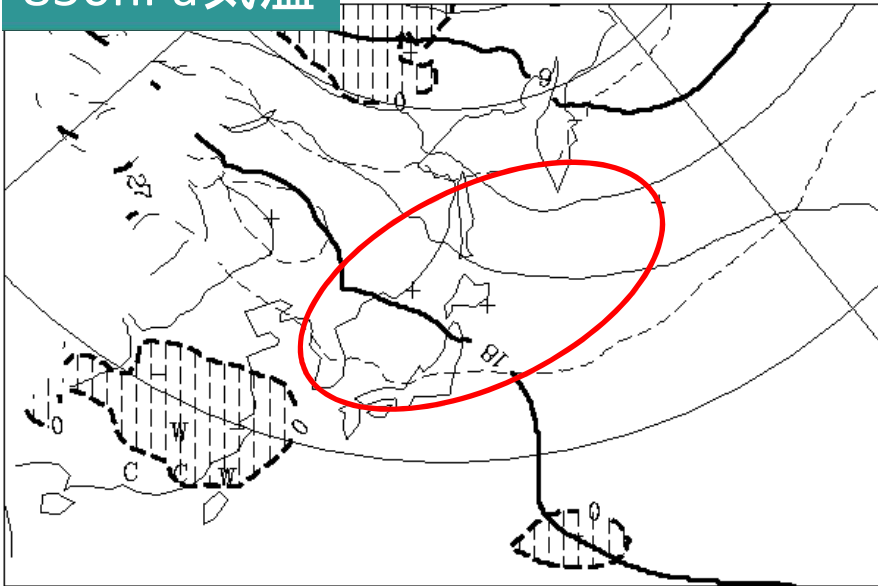


北半球中緯度帯の全域で正偏差が続く。

北・東・西日本は、東西帯状に伸びる正の高偏差確率50%以上の領域に覆われる。
日本の北側でスプレッドが大きい領域が見られ、寒帯前線ジェット気流に沿ったロスビー波束伝播の予測の不確実性を示唆。

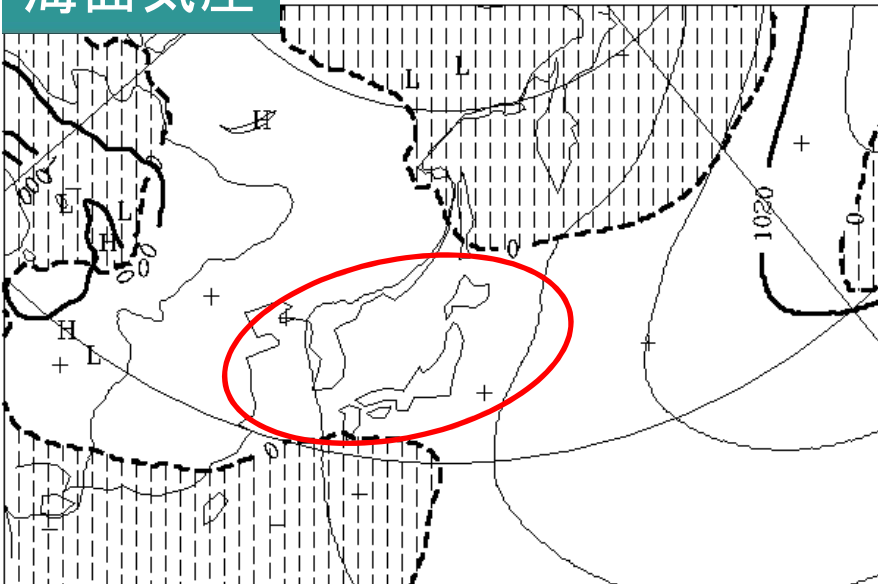
予報資料の解釈 3～4週目(7/19～8/1)

850hPa気温



北・東・西日本中心に正偏差。

海面気圧



日本付近は広く正偏差で太平洋高気圧に覆われる予測となっている。ただし、太平洋高気圧の北への張り出しを強めるモデルのバイアスに留意。

想定される天候

- ・ 北日本では、天気は数日の周期で変わるでしょう。
- ・ 東・西日本と沖縄・奄美では、平年と同様に晴れの日が多いでしょう。

<気温>

暖かい空気に覆われやすいため、北・東・西日本は高温、沖縄・奄美は高温傾向。

<天候>

全国的に、平年と同様。

気象庁
Japan Meteorological Agency



26